けんこう処方箋

北海道対がん協会長　加藤 元嗣

半日程度 安価 構えずがん検診

このところ、「ぜひ、がん検診を受けて下さい」と口酸っぱく繰り返していますが、今回は先進国のがん検診の実態を見てみましょう。欧州各国は国策として組織型検診が根付いていて、検診対象の名簿に基づき受診を勧奨する体制が整っています。一方、米国では任意型検診が主体ですが、そもそも医療費が高いので病気になる前に、かかりつけ医が医療保険でカバーできる予防医療を勧めます。そのため、いずれも高い受診率を維持しているのです。

数字で見ると一目瞭然です。ちなみに日本は厳密な統計でなく、アンケートの推計値です。乳がん検診（40～69歳）の受診率は、米国76％、韓国74％、フランス70％です。ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）加盟国の平均が54％ですが、日本は45％に留まります。子宮頸（けい）がん検診（20～69歳）では、ドイツ78％、フランス73％、アメリカ72％でＯＥＣＤ加盟国の平均が53％。日本は44％です。日本の受診率の低さはなぜでしょう。がんの治療と予防に、臨床と研究の両面から携わってきた長年の経験から、「がん検診の重要性や正しい知識が定着していない」と私は考えています。

未受診の理由を調べると、「受ける時間がない」「健康状態に自信があり必要性を感じない」「心配な時は医療機関を受診できる」「費用がかかり経済的にも負担になるから」の順でした。ですが実際には、がん検診には長時間の拘束はありません。公費で受けられる五つのがん検診すべてを受診しても半日もかかりません。大病院で長く待たされるイメージがあるかもしれませんが、検診では流れるように検査が進みます。

また「健康で症状がない」「いつでも病院を受診できるから」という理由も、がん検診と、病院の受診を混同している状況がうかがえます。がん検診は症状のない人が対象です。隠れている小さながんを発見し、早期の治療で死亡を減らすのが目的です。症状が出て病院へ出かけるのとは違うのです。検診で見つかれば、病院で見つかるよりも死亡率が低いことも分かっています。経済的負担についても、市町村のがん検診では一部が公費で負担されているので、同じ検査を病院で受けるより安価です。また、がんが早期に見つかるほど、治療費用を減らし、治療期間も短くできます。

2022年の都道府県別の推計受診率で、北海道は胃がん、大腸がん、肺がんはワースト１位、子宮頸がんと乳がんはワースト２位でした。その結果、がん死亡率もワースト２位。道民のみなさんに、もっとがん検診に対する意識を高めてもらいたいと願っています。

イラスト・佐藤博美

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。